

土砂災害から身を守る

避難計画図の作成

セーフコミュニティちちぶ

秩父市は、比較的災害の少ない地域ですが、埼玉県が指定する土砂災害警戒区域の指定が1,100か所以上あります。

そのため、大雨時には土砂災害発生危険性も高く、また、土砂災害が発生すると、一瞬にして多くの生命や財産を奪ってしまうことから、日ごろからの備えが求められています。

一般的に土砂災害は、突発的に発生し、一定の区域内に被害が集中する部分的な災害ですので、危険区域から、安全な場所までの避難経路が重要となります。

そこで、災害時の安全対策委員会では、久那地区および白久地区をモデル地区として、大雨による土砂災害からの避難計画図を作成しています。

この避難計画図は「逃げ地図」と呼ばれ、災害時における津波からの避難を想定し、作成されたものですが、この手法を大雨時の土砂災害からの避難計画図に利用しています。



避難経路確認ワークショップの様子

避難計画図の作成にあたっては、明治大学の協力のもと、地域の関係者が中心となり、作成をします。まず、危険区域と、避難場所の確認をした上で、避難する際の経路と避難に要する時間を地図上に記入します。そして、土砂災害の危険が高い場所や、土砂などで避難経路が遮断される危険箇所などを話し合い、地区ごとに安全な避難経路

を地図にまとめます。完成された避難計画図は、地域住民へ配布し、地区防災訓練などに活用し、避難経路を実際に歩いて確認しています。近年、異常気象による集中豪雨や大型の台風が発生しています。委員会では、この取り組みを他の地区へも展開し、地域と協働による防災体制の整備を目指しています。



上白久町会避難計画図

災害は、いつ発生するか分かりません。災害時の安全向上のため、地域の皆さんのご協力をいただきながら、関係機関と連携し、引き続きさまざまな取り組みを積極的に展開します。

☎危機管理課 22-2206

「避難計画図を利用した防災訓練の実施」



9月3日の防災訓練一実施日に合わせて、上白久町会では避難計画図を利用した防災訓練を実施しました。

当日は、9時のサイレンが鳴ると、避難計画図を基に、避難ルートを確認しながら、地区で指定した避難場所まで避難を行いました。避難場所までの実際にかかった時間や、避難されなかつた方の安否確認なども行い、実践さながらの訓練が行われました。

参加者からは、「安全に避難できるルートが分かって安心した」、「早めの避難が大切だと思った」、「危険を感じたら訓練どおり避難したいと思う」などの感想がありました。

また、避難する際の備蓄品グッズの披露も行われ、普段からの備えの大切さについて勉強しました。

☎危機管理課 22-2206